

投稿寄稿

く交わるようになりました。事務所は東京駅八重洲に近い所にあったので、深川区豊洲に住んでいた私は比較的近かったので、よく行き来していました。羽後本荘出身の伊藤(二)君と3人で、彼の手伝いで深川区東陽町に場所を借りて仕事をしました。斎藤君はI君とよく碁を打っていましたが、私は2人には歯が立ちませんでした。

昭和35年(1960)会社は播磨造船と合併して石川播磨重工業となつて、この1年は3ヵ月交代で課員が出張していたが、今度は正式に移籍する人選をしていました。独身である私が候補の打診はされていました。しかし、関西で一人者という不安さと、大学で学んだ電気の仕事がしたいという希望があつて、そこで故郷秋田にでも帰って就職したいと考え、斎藤君に相談しました。その頃彼の会社の社長の田中氏は、秋田県会議長をしていて顔が広く早速県の電気局の仕事を紹介してくれました。

その年末、秋田県県庁の課長さんと秋田県上野寮で面会、明年4月から勤務出来るよう口約束をしました。しかし年が明けて2月になつても何の連絡もなく、会社からは転籍の返事を催促されるし困り果て、私の一番頼りにしている秋田の従兄(当時、東北機械の重役、後に社長)と相談しました。寒い秋田の仕事よりは暖かい瀬戸内の工場で今の技術を活かしたらと言われ、そして会社に転属の了解をしました。

それから1ヶ月後の3月下旬、移転の荷物を纏め発送の手配が終わり明日は出発という日、秋田県庁から4月1日から入社せよとの通知がありました。私は困り、斎藤君と相談し秋田からあんまり連絡がないのもう転籍しましたので、県に中田社長からよろしく謝ってほしいとお願いをしました。(私の就職先は秋田釜端発電所でした。秋工高同期生が二人亡くなっています。)

私が関西へ行ってから、2年目、故郷秋田大曲で結婚をしました。斎藤君は忙しく来席できなかつたが、同級生に連絡してくれて予

定外の数人が列席しました。

私が東京に帰り原木会館にいた頃、斎藤君は東京秋工会の幹事長になり、それから長年会のために活躍され、同期の澤木会長を補佐されたことは周知の通りです。老年になつて、斎藤君とは我々同級生の仲間とは時々旅行もしていました。しかし病気がちで、よく救急車で運ばれたとの話をされていました。しかしよくボランティアで碁の指導に行つて来たとの話には感心していました。



湘南海岸にて(2010年頃)
斎藤右二郎氏・私・伊藤二夫氏

3年程前、私が長年住み慣れた横浜から現住居の東京に移住した時は、娘の近くに住むことに非常に喜んでいました。斎藤君は自分が年老いてから娘さんと隣接で住むことを非常に喜んでいて、近年病気がちだった彼は特に家族の愛を受けていたことと思います。

なおお文中のS君とは斎藤君のことです。その如才ない態度、それにああ、何事にも良く精通しているのにはいつも敬服していました。

《追記》

VOL.29号の船木氏の記事「同窓と同郷の縁の下に」でも斎藤君とタワークレーンの開発について触れていましたが、小川製作所(株)で新しいクレーンの運転台を作ることになり、其の製作に私も加わりました。流線型の車体?をFRPプラスチックの形を作って貰いに、津久井湖の近くまでメーカーを探しに行ったことを思い出します。そしてこの運転台の組み立てを千葉市誉田町の某工場を借りて行いました。この工場も斎藤君の世話で、彼の昔の知り合いの会社でした。恥ずかしながら今でも私の額には、組み立て途中に天井クレーンのフックが当たり内出血の跡が今でも残っています。



地盤調査・土質試験・土地家屋調査 土木設計・一般測量・さく井調査



代表取締役 佐々木 秀人
取締役 佐々木 進(昭和40年採鉱科卒)

本社 東京都調布市東つつじヶ丘3-41-31
〒182-0005
TEL 03(3308)7591
FAX 03(3308)7597
E-mail : geo@msj.biglobe.ne.jp